

児童生徒・教職員が安心安全な学校風土の構築に向けて

背景と問題の所在

本校に通学してくる児童生徒は、虐待や愛着障害、ASD・ADHD等の特性を抱え、こども相談センター（児童相談所）から隣接する長谷川羽曳野学園（児童心理治療施設）に措置された児童生徒が通う。

近年、児童生徒数が急増に増え、児童生徒の心理的課題や問題行動の多様化し、教職員は日々、事後対応型の生徒指導・校務等に追われ、疲弊しきっている状態であった。

心理的に支援を要する児童生徒や問題行動を起こしてしまう児童生徒に対し、教職員はどのように児童生徒に関わり、協働し合いながら学校課題を解決していく必要性が明確になった。

研究の目的

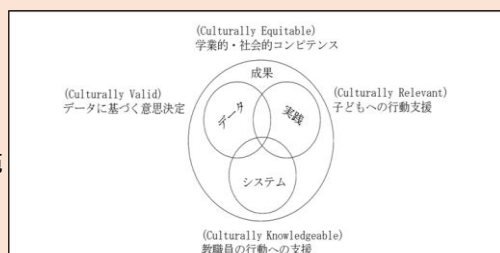
本実践研究の目的は、児童生徒の問題行動を減少させ、望ましい行動を増やし、教職員が児童生徒と直接関わる機会を設けることである。直接関わる機会を設けることで、児童生徒と教職員が良好な関係を構築し、児童生徒はもちろん、教職員に対しても働きやすい安心・安全な学校風土の構築である。また、児童生徒対応に困っていること、学校をよりよくしていくための方法などを共有し、協働して解決できるように教職員の心理的安全性の構築も目指していく。

令和4年度より、SWPBS(学校規模ポジティブ行動支援)を導入。教職員の心理的安全性を考慮し、学校のリソースに合った進捗で取組を推進していく。

実践方法【SWPBSの枠組みを活用】

- ①子どもへの行動支援「実践」…学校規模のマトリクスを作成し、望ましい行動への称賛
②教職員の行動への支援「システム」…定期的なSWPBS部会、教職員への称賛
年2回 教職員アンケート 等
③データに基づく意思決定「データ」…年2回 SDQ(子どもの強さ困難さ)アンケートの実施
年度末 TFI(実行度データ)による
年2回 学校内児童生徒調査 等

④学業的・社会的コンピテンス「成果」の向上



【SWPBSの4つの要素(Honer&Sugai, 2015;Honer&Sugai, 2002)】

実践内容

- (1)子どもへの行動支援「実践」
教職員が抱えている「困った感」を共有し、全教職員による【望ましい行動マトリクス素案】を作成
→児童会と協働し、【望ましい行動マトリクス】を作成(毎年 更新)
・小学校全体で挨拶運動を実施←モデリング撮影【児童会参画】
・望ましい行動マトリクスは、年度末に児童会と教職員で振り返りを行い、再構築を実施
・学期末に児童へ【振り返りシート】
・児童の望ましい行動に対して、教員からシールを渡し、決められた台帳に貼る。
一定数シールが貯まると、【オリジナル缶バッジ】を授与

- (2)教職員の行動への支援「システム」
- ・PBS研修会の実施(年数回)
 - ・月1回のSWPBS部会、学園との連絡会を開催し、全教職員で児童対応について思案
 - ・児童生徒に対して学校統一の【聞き取りシート】を活用
 - ・中学校も、SWPBSの導入に向けて導入・試行段階

- (3)データに基づく意思決定「データ」
- ・子どもの問題行動データを入力し、月1回のSWPBS部会で共有→解決方法を思案
 - ・SDQ(子どもの強さ困難さアンケート)を実施し、データを担当教員と共有
 - ・TFIを実施し、学校としてPBSが持続的に発展しているのか測定(令和7年度末 21pt/30pt)

 長谷川小の Three Smiles 			
令和8年度	わたし smile 	あなた smile 	みんな smile 
ぐくしゅう 学習	すくすく 進んで活動に さんか 参加しよう！	ともだち 友だちのよいところ を見つげよう！	めいご 目を見て、最後まで話を きこく 聞くようにしよう！
せいじつ 生活	じぶん 自分の役に ていねい ていねいに伝えよう！	けんご 目を見てあひつを しめよう！	ぎふ 次の活動の用意をしよう！
なががわ 長谷川 モデル	じぶん 自分のできることを あふ 増やすようにしよう！ ()	けんご 相手の気持ちを きこく きこよう！	さいご 集中して最後まで あきまふ あきまふ 取り組みよう！ とりくみよう！



結果分析

- (1)【2022年度～2026年度8月末】問題行動件数の減少



- (2) 児童の望ましい行動の強化
・児童の望ましい行動を称賛するベクトルの統一

- (3)教職員の疲弊感の改善
・7月の教職員アンケート(29～35項目)の「他教員とのつながりに関する項目」について、5月の肯定的回答より減少傾向

考察と今後の課題

- (1)考察
学校全体で【望ましい行動マトリクス】を作成したことで、全教職員・全児童がどのような行動が望ましいかが明確になり、称賛することにより、その行動が強化し繰り返されるようになった。
- ・児童の望ましい行動が引き出される工夫としてオリジナル缶バッジ等を作成したことで、意欲的に取り組み、児童の安心感と学習規律の回復に効果があった。また、日々の学校生活の中で【傾聴・承認・称賛】を基盤とした生活指導へ転換したことも大きな要因である。

- (2) 今後の課題
- ・本校において、SWPBSが持続的発展していくため新たな推進リーダーの育成が必要である。
 - ・教職員に対しても、安心安全な学校風土の構築のために、称賛し合える取り組みを実施していく必要がある。
 - ・全教職員で児童のアセスメントについて、考えていく必要がある。
 - ・中学校でも小学校同様にSWPBSが根付いていくためのシステムを構築する必要がある。